

12月号

平成3年12月1日
発行/編集
岡崎市教育委員会

運動場を素足で走るマラソン旅行
小さな三十九名の足あとが
どんどん重なってゆく

真っ赤な顔で走る姿は
四月と変わっていないが
足あとは
ずいぶん大きくなってきた

踏み重なった足あとは
幅広く連なつて
時間の向こうに伸びていく
ひたむきな一途さよ

負けられない

私も列に入つていこう

「がんばろうね」「がんばってね」

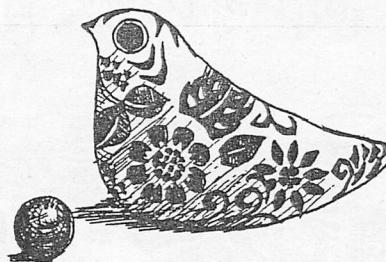
真っ赤な顔の一つ一つに
ひたむきな一途さよ

〈マラソン旅行〉



(お父さんといっしょ。楽しいなあ — 矢南小)

終戦の詔勅を私は美濃の山中で聞いた。雜音ばかりの放送の中で、お言葉のいくつかに戦争の終ったことを知り、ほつとしたものだた。私の所属した部隊は金沢に師団司令部を置き、加越・美濃の各地に展開する、本土決戦最後の部隊であった。機関砲隊でありながら、一門の砲もなく空車を引いて農道を走った。空母から飛び立った敵の戦闘機の来襲には、ひたすら山中深く隠れるばかりであつた。



— 教育隨想 —

終戦前後

岡崎市国際交流協会会長

中村繁男

痴呆のように歩いている人々は見向きもしなかつた。なにがしかの支給品を背に負つて岡崎へ帰つた。焼けただれた街の端に我が家は半焼の状態で、かるうじてその姿を保つていた。これでは何も出来ない。私はすぐ美濃の山中へ帰つてしまつた。第一に食糧、次は仕事。実はその頃、その町の農林学校から、英語の先生の口がかかるつていた。口しのぎのつもりで入つた仕

戦後第一回の総選挙が占領軍の監督の下に行われた。そこいらの英語の教師はすべて徴用され、占領軍に組み入れられた。帰つてこられないかも知れないと思いつつ、出迎えのジープに乗つた。当のアメリカ兵は陽気で、合理的で何の屈託もなかつた。しかし私達の方が役に立たなかつた。或る日、一人の日本人が通訳を志願してやつて来た。彼は代りにコミュニケーションを要求した。米国兵は直ちに受け入れて、自分達の仕事の円滑化をはかった。これがこれから商売かと、大いに感心させられたものである。聞けばそこの人は何年もアメリカに住んで、自分の技能を売るのは当たり前のことと、平然としていた。これからは義理人情では飯は食えぬと、発憤したものだ。

私が先生生活は一年と少しで終つた。事が、たまたま「先生」であつたことを今も恥ずかしく思つている。

戦争が終つて「教育」は混乱の中にあきらいどころを近隣の町から呼び寄せて毎晩のように宴を開いていた。詔勅はなくとも、戦争は終りそうだと思つた。主

教師の授業をボイコットした。私の「英語」力もいい加減なもので、教わる方も農業に「英語」が必要になるなどとは思つてもいない。かわりに世の中の急激なうつりかわりを語り合う時間が殆どであった。

今も恥ずかしく思つている。

戦前は「教育」は混乱の中にあきらいどころを近隣の町から呼び寄せて毎晩のように宴を開いていた。詔勅はなくとも、戦争は終りそうだと思つた。主計の立場で資金受領のため出向いた岐阜の街はおむね焦土と化し、「広島に新型爆弾投下」の号外が熱風に舞つていた。

思いつきり歌える学校

音楽科指導員
永田 邦雄



大隊長は予備役招集の将校で、陶器問屋の旦那であった。大隊長付の曹長は織維ブローカーで、隊長のためと称しては、きれいどころを近隣の町から呼び寄せて毎晩のように宴を開いていた。詔勅はなくとも、戦争は終りそうだと思つた。主計の立場で資金受領のため出向いた岐阜の街はおむね焦土と化し、「広島に新型爆弾投下」の号外が熱風に舞つていた。

戦争が終つて「教育」は混乱の中にあきらいどころを近隣の町から呼び寄せて毎晩のように宴を開いていた。詔勅はなくとも、戦争は終りそうだと思つた。主計の立場で資金受領のため出向いた岐阜の街はおむね焦土と化し、「広島に新型爆弾投下」の号外が熱風に舞つていた。

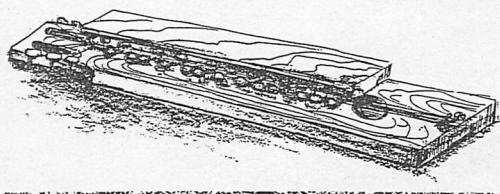
（なかむら しげお）

大隊長は予備役招集の将校で、陶器問屋の旦那であった。大隊長付の曹長は織維ブローカーで、隊長のためと称しては、きれいどころを近隣の町から呼び寄せて毎晩のように宴を開いていた。詔勅はなくとも、戦争は終りそうだと思つた。主計の立場で資金受領のため出向いた岐阜の街はおむね焦土と化し、「広島に新型爆弾投下」の号外が熱風に舞つていた。

戦争が終つて「教育」は混乱の中にあきらいどころを近隣の町から呼び寄せて毎晩のように宴を開いていた。詔勅はなくとも、戦争は終りそうだと思つた。主計の立場で資金受領のため出向いた岐阜の街はおむね焦土と化し、「広島に新型爆弾投下」の号外が熱風に舞つていた。

ふるさとシリーズ

この人に聞く



大正琴

本多千枝子 氏

大正琴といえば、日本人の心に迫る哀愁をおびたなんとも言えない美しい音色が連想される。岡崎でも、高齢者の女性にブームを呼んでいる。

今回は、老人クラブや市民ホームなどで、大正琴の指導者として活躍されている本多千枝子さん宅を訪ねた。

大正琴との出会いをお尋ねすると、「あれは、昭和五十六年のことだったと思います。農協婦人部で、大正琴の講習会があつたんですね。それに友人が応募したんです。最初の会に、その友人の代わりに私が出席したのがきっかけなんです。その時に、哀愁をおびた

音色にいっぺんに魅せられたんです。

先生が弾いてくださった『さくらさくら・船頭小唄』を聞いて、自分でこれだと思いました。」

と、熱っぽく話してくださいました。

本多さんに、現在の活動についてお伺いしました。

「対象は子育てが終わられた女性の方がほとんどです。会員は三百名ほどです。

素質のある方は、三ヶ月で上達します。

技術的には、やっぱりこつこつとまじめに練習する人が伸びますね。きれいな音を出すには五年、すばらしい演奏者になるには、十年はかかると思います。

また、私も琴伝流ではソプラノだけでなく、アルト・テナー・バスのアンサンブルの演奏をすることにより、みんなで楽しめるることを大切にしています。

大正琴はとても役立りますし、とてもすばらしいものだと思います。さらに、大正琴は幅広い年齢層で奏でられる事が可能ですので、一緒に楽しく演奏する事によって、子供とお年寄りの心のふれ合いができるのです。また、地域の人たちの交流にもなりますね。私は、ピラミッドの頂点にはなりたくありません。大正琴を通して、皆さんに良い思い出をたくさん作ってもらいたいと思っています。」

情緒豊かな音色を奏でていらっしゃる横顔に、人生の愉しみを享受する人のもう一つ、しつとりした潤いが感じられた。

（氏名：ほんだ ちえこ）

生年月日：昭和十二年五月十日
住 所：岡崎市大西一丁目二十四

す」

大正琴の歴史についてもお聞きした。

「大正二年から演奏され始め、それ以後昭和になってギターが普及したころは

一時下火になつたんです。しかし、昭和五十二年からまた見直されてきました。

最近では、文化として認められつつあるんです。」

もつとたくさんの人たちに大正琴を理解してもらい、親しんでもらうために、毎年、大正琴研究会合同発表会が岡崎で開かれているとのことです。大正琴の魅力や将来の夢について語られた。

「人口が増え、これから高齢化社会を迎える。指先を使いますので、ご老人の頭の体操にもなりますね。また、より

豊かに生きるために音楽はとても役立りますし、とてもすばらしいものだと思います。」

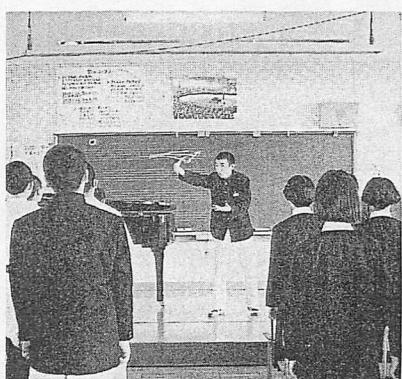
豊かに生きるために音楽はとても役立りますし、とてもすばらしいものだと思います。」

豊かに生きるために音楽はとても役立りますし、とてもすばらしいものだと思います。」

豊かに生きるために音楽はとても役立りますし、とてもすばらしいものだと思います。」

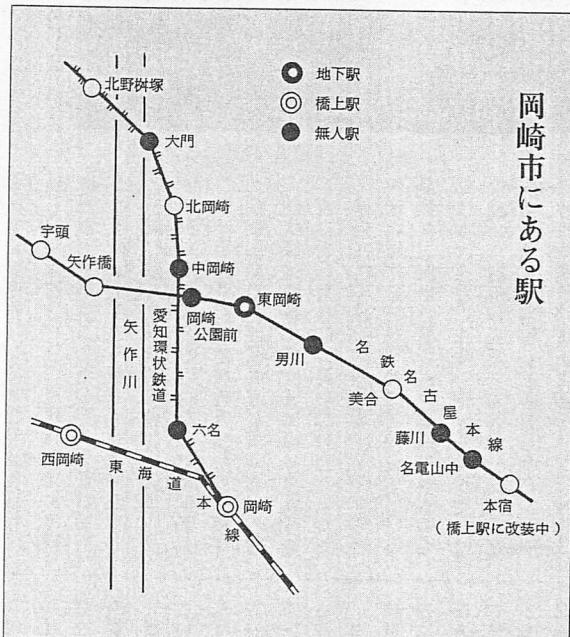
意外なことに、今のような歌声になつた要因に、特にこれといったものはないという。だが、何となく分かるような気もする。明るく自然な挨拶が身についている生徒、合唱を学級作りの有効な手段と認識している担任、そして歌う楽しさを伝える音楽教師…。

コンクールが近くなると、他の学級へ訪問し、お互いの合唱を聞き合い、意見を交換するという。こういう学級が自然発生的に出てきたところが違う。一学期の学級歌発表会に続き、二期のコンクールと、学級作り、学校作りに音楽の行方が大きな意義を持つ学校である。





70



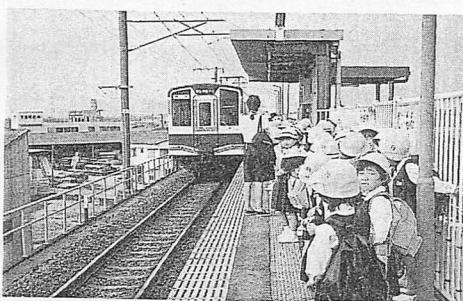
変わりゆく岡崎の駅

自由通路を持つたJR岡崎駅。地下駅となつた名鉄東岡崎駅。この一、二年の間に、岡崎の玄関ともいべき「駅」が新しく生まれ変わった。名鉄本宿駅では新駅舎の工事が進められている。しかし一方では、駅員も駅舎もない駅へと変わってしまった駅もある。

車社会の到来とともに駅の果たす役割や駅に対する人々の考え方が大きく変化してきたことがうかがわれる。

そこで、今回は、岡崎市内にある「駅」を訪ね、今はどのような駅が求められているのか、そして、それがどのような所で具体化されているのかを探つてみた。その結果、求められる駅の姿としては、乗り場としての駅から地域活性化の核としての駅、安全で快適な空間のある駅、誰もが利用しやすい駅等が浮かびあがってきた。言い換えば、「安全」と「サービス」に重点が当たっているのである。

新しくできた駅には、その時代に生きた人々の願いや思いが反映されているように思われる。



無人駅の愛環六名駅。乗車証明券発行機が設置してある。



▲ 東西から利用できる橋上駅としで新装なったJR岡崎駅。

地元の要望で駐輪場が設置され、乗降客が増えている。

サービスの向上

愛環鉄道沿線小中学生による作文集。第二セクターである愛環鉄道は関係四市連絡協議会を月一回開き、地元とのつながりを図る活動を実施している。作文

- ① 地元からの要望
- ② 自転車置き場の設置、駐車場の確保、駅裏をつくらない橋上駅の設置、列車増発
- ③ 身体障害者への配慮

- ① 点字ブロック、点字案内板の設置、エレベーター・エスカレーターの設置
- ② 利用者へのイメージアップ
- ③ 業者委託による清掃の励行

- ・構内への音楽放送、広告の少ないすつきりした構内



名鉄本宿駅・JR岡崎駅には身障者用エレベーターがある。



JR岡崎駅は、他駅にない幅十メートルの自由通路をもつ。



愛環北野・桜塚駅近くの列車制御集中システム。列車の動きを把握し指令を出す。



私たちの
愛知環状鉄道
作文コンクール 入賞作品集

JR岡崎駅には手すりに点字の案内表示が施してある。

愛環中央指令室。無人駅への案内放送はここから行う。

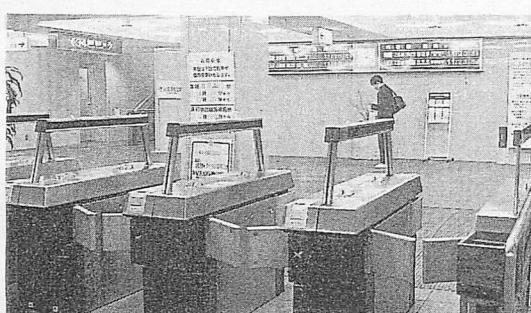
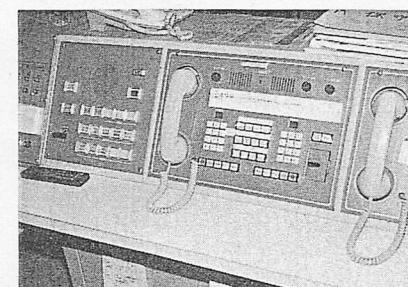
安全対策の強化

利用者の目に触れない所で様々な安全対策がなされている。

- ① 構内踏み切りの廃止
- ② 線路や渡り通路の高架化
- ③ 駅の橋上駅化、地下駅化
- ④ 無人駅への対策
- ⑤ 中央指令室からの案内放送
- ⑥ 設備の設置
- ⑦ 列車集中制御システム
- ⑧ 安全設備の設置
- ⑨ 必要時には駅員の臨時配置
- ⑩ 階段のすべり止め、放送による啓蒙、白線の表示
- ⑪ その他
- ⑫ 二十四時間常時職員待機
- ⑬ ポイントの自動化



自動改札口を備え、地下駅として都市型にイメージを変えた名鉄東岡崎駅。





みんな古代人

本宿小 前田 康幸

「ええ、本当？」

「本当にそういうことやつてい
いの？」

子供たちは口々に大きな声を
あげる。その声には、驚き、喜
びなどいろいろな思いがこもっ
ている。ほとんどの子は本当に
やれるのか、半信半疑の様子だ。

子供たちは、一様に歴史には
興味をもつてゐる。そこで、一
学期から昔の人と同じ体験をす
ることを授業に取り入れてきた。

今回の「一日古代人」もその
ひとつだった。

一学期に作った土器の野焼き
と、縄文時代の人が食べていた
赤米の試食を中心に計画した。

掘り出してみると、割れていた
ものは少なかったものの、ほと
んどが真っ黒。

「私たちの作ったのは、焦げて
いたり、形が変で中に何も入
れられないというのが多かつ
たので、縄文時代の人たちは、
割れないように工夫して、上
手に作っていたということが
よく分かりました。」

準備が進むにつれて子供たちは
次第に乗り気になってきた。
八月二十七日の前日の準備に
は自由参加にもかかわらず、た
くさんの子供が来た。運動場に
野焼きの炉を作ることが主な目
的だった。

いよいよ野焼き開始。割らな
いように土器を並べる子供たち
の顔は真剣そのもの。特に、ふ
だん元気な子が、信じられない
ような硬い表情になっている。

学区の人たちの協力によつて
集めたわら、こわ、木ぎれがど
んどん燃やされていく。自分の
土器がどうなつてゐるか、心配

そうな子供の顔、顔、顔。
野焼きが軌道にのつたころ、
今度は夕飯作りを始めた。この
日は、赤米を用意してくれた安
城市に住む鈴木さんもわざわざ
駆けつけ、赤米の炊き方の指導
をしてくれた。初めて赤米を食
べた子供は、一様に「おいしく
ない」という。今の子供たちの
口には合わなかつたようだが、

昔から続く米と日本人との結び
つきには気がついたようだつた。
一夜明けて、次の日。土器を
わざや応援練習が行われてゐる。
体育大会は、四月から動いて
いたり、形が変で中に何も入
れられないというのが多かつ
たので、縄文時代の人たちは、
割れないように工夫して、上
手に作っていたということが
よく分かりました。」

古代になりきれなかつた子
供たち。古代は意外に厳しい時
代だったのかも……。

古代人になりきれなかつた子
供たち。古代は意外に厳しい時
代だったのかも……。

ひとり、形が変で中に何も入
れられないというのが多かつ
たので、縄文時代の人たちは、
割れないように工夫して、上
手に作っていたということが
よく分かりました。」

古代になりきれなかつた子
供たち。古代は意外に厳しい時
代だったのかも……。

ひとり、形が変で中に何も入
れられないというのが多かつ
たので、縄文時代の人たちは、
割れないように工夫して、上
手に作っていたということが
よく分かりました。」

ひとり、形が変で中に何も入
れられないというのが多かつ
たので、縄文時代の人たちは、
割れないように工夫して、上
手に作っていたということが
よく分かりました。」

ひとり、形が変で中に何も入
れられないというのが多かつ
たので、縄文時代の人たちは、
割れないように工夫して、上
手に作っていたということが
よく分かりました。」



体育大会

竜海中 高橋 誠

竜海中の体育大会では、毎年
熱のこもつた「応援合戦」が行
われている。九月に入ると、生

徒会を中心に行なわれる「実行委
員」が選出され、マスクコット製
作や応援練習が行われてゐる。

体育大会は、四月から動いて
いたり、形が変で中に何も入
れられないというのが多かつ
たので、縄文時代の人たちは、
割れないように工夫して、上
手に作っていたということが
よく分かりました。」



その組の製作物は意味がない。
応援物なんかなくとも競技は
できる。なぜ作るのかを考える。」

それ以後、それまで他人事の
ような顔をしていた新人戦前の
運動部の連中が製作にかかる
ようになつてきました。

台風に脅かされながらも連休
を返上しての製作、衣装も歌も
完成し、さあ本番。結果は……
七十二点満点の七十一点。全校
でもダントツの優勝。

楽しいだけの製作ではなかつ
ただけに、満足感もひとしおだ
った。

何となく雰囲気が盛り上がり
てこない。そんな折りに学年集会
が持たれた。この機にと思い自
分のクラスにも喝を入れるつも
りで全体に話をした。

「応援物にガムテープ一枚すら
貼つてない非協力者がいたら、

お知らせ



第十九回教育文化賞

神谷・柴田両氏と三団体

去る十一月十六日(土)、せきれいホールで、「第十九回教育文

化賞」の授賞式が行われた。

本年は、推薦のあった個人十一点、団体十二点の中から、次の方々が受賞の栄に輝いた。

〔個人〕

▼神谷四士保氏(六十九歳)

昭和四十八年から、学校の環境緑化活動を始め、南中学校長を最後に退職してからも、盆栽、挿し木教室などを開いて、環境緑化推進に尽力した。

▼柴田実氏(五十四歳)

昭和五十五年から、市内の障害児十五名に趣味の油絵を指導を
その後名古屋、藤岡でも指導を始め、障害者の絵画能力をひき出し、社会参加への積極性をも

【寄贈刊行物】
◆求道俱行
元南中校長 神谷 四士保
A5判 二五三ページ
ソニー教育資金贈呈校
優秀校 竜南中・北中
優良校 城南小
努力校 藤川小・城北中
・県表彰 小笠原健治・浅井浚二元校長

県表彰 县教育委員会表彰
小笠原健治・浅井浚二元校長

平成三年度の学校教育に関し、功績顕著な先生の表彰が行われた。

次の方々が表彰された。

・県表彰 小笠原健治元城北中学校長

県校長会副会長を務められるなど、県下の教育振興に貢献された。

・県教育委員会賞 浅井浚一元甲山中学校長

市中学校長会長を務められ、学校教育における功績が多大であった。

学校教育における功績が多大であった。

鈴村正弘元教育長大臣表彰

昭和六十年三月より、貯蓄と生活設計の推進員として、県民に家庭生活を始め、老後の暮らし

方や金銭教育などについて指導をしてこられた。その功績により今回、大蔵大臣・日本銀行總裁表彰を受けられた。

【団体】
▼岡崎子どもの本研究会

月一回の定例会を開き、子どもたちへの読み聞かせや読書会の開催。また、著名な児童文学

者を招いて講演会を開くなど、子どもたちに良書を与える活動を推進した。

▼矢作中学校

「自然に帰り、自然に親しみ、自然に挑む」を目標に、矢作川原でアースワークに取り組み、同時に河川美化に努めた。

▼自作教材制作委員会

社会・理科の地域教材の映像化を目指し、ビデオ教材を作成。その作品は多くの賞に輝いた。

自分の命は自分で守ろう

十月末の県下の交通事故死者は四八一名(前年比五八名増)

で、全国一の不名誉な記録を更新している。その中に本市の児童が含まれ残念でならない。

市内小中学生の交通事故発生件数は、昨年とほぼ同数であるが、二九件(六二%)が、自転車・骨折以上が十件といずれも昨年より増加している。

月別では二学期で四三%、学年別では小一・小二で四四%、原因別では飛び出しが四五%を占め、自転車に乗る低学年の飛び出し防止が重要である。

「自分の命は自分で守る」交通安全指導を、さらに強力に進めたい。

交通事故発生件数
(平成三年十月三十一日現在)月別発生状況
(平成三年十月三十一日現在)学年別発生状況
(平成三年十月三十一日現在)

■第30回小学校陸上競技大会

	優勝	2位	3位
男子	羽根	大門	広幡
女子	広幡	本宿	大門

■平成3年度中学校新人総合体育大会

	優勝	2位	3位
野球	矢作北	矢作	竜海
ソフト	矢作	城北	竜海
サッカー	新香山	竜南	矢作北
			甲山

(前号続き)

C B C ども音楽コンクール

西三地区大会

・国税庁長官表彰
六ツ美中学校 山本信幸教諭

〔寄贈刊行物〕

◆求道俱行

元南中校長 神谷 四士保

A5判 二五三ページ

ソニー教育資金贈呈校

優秀校 竜南中・北中

優良校 城南小

努力校 藤川小・城北中

・県表彰 小笠原健治・浅井浚二元校長

平成三年度の学校教育に関し、功績顕著な先生の表彰が行われた。

・最優秀賞 梅園小(合唱部)

・最優秀賞 梅園小(吹奏樂部)

・最優秀賞 竜美丘小(吹奏樂部)

・最優秀賞 竜美丘小(三年四名)

・最優秀賞 下澤のりこ(井田小)

・最優秀賞 嶺沢聖子(井田小)

・最優秀賞 矢作北中(三年四名)

・最優秀賞 第五回小学校放送コンテスト

・最優秀賞 下澤のりこ(井田小)

・最優秀賞 矢作北中(吹奏樂部)

・最優秀賞 竜美丘小(合唱部)

・最優秀賞 竜美丘小(吹奏樂部)

計

自損・その他

出会い頭

接触

横断歩道

飛び出し

原因

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年

年</

落成時代から昭和三十年に至るまでの教育の記録が系統的にまとめられ、記述されている。

これまでにも、岡崎の教育の歴史を著すものとして、「岡崎教育小史」が二回刊行されてい

こうして、第二集が学制発布周年を記念して昭和四十六年に刊行された。この時から、十年ごとに教育史要を刊行していくこととなり、今回の第四集刊行となつたのである。

四月に「岡崎教育史要IV」が刊行された。昭和五十五年以降十年間の岡崎の教育の歴史をまとめた貴重な記録である。今回 の刊行によつて、「岡崎教育史要」も四冊となつた。

たが、岡崎の教育の歴史を系統的・体系的にまとめたものは、写真の昭和三十三年刊行の教育史事が最初といえる。

表紙写真
矢南小
矢南大
六ツ美中
明岡田江里恵子
谷光里
熊谷光
岡田江里恵子
岡田江里恵子

内田松吉氏藏

岡崎教育史要

大晦日まであと僅か。今年もまた一年を振り返る時期がやつて來た。湾岸戦争の終結、激変したソ連、宮沢新内閣の誕生、雲仙普賢岳の火碎流。国内外に大きなうねりがあつた。岡崎の教育界にも頭髪自由化の波が起きてきた。

変動する時代。今こそ、教育の不易と流行を考えたい。

指揮者に見入る眼差し、自分の心を声に乗せようとする口元。合唱発表会に臨む子供たちの姿は美しい。真剣さが伝わる。やればできる。教師としての喜びを感じる一瞬である。

三無主義、四無主義といわれる現代中学生氣質。奥に秘めているエネルギーを發揮する場、本気になれる場が必要だ。

安全は鉄道マンの最優先事項。取材に
行つた各駅の駅長さんが異口同音に話さ
れた言葉だ。安全は、それが損なわれた
時、初めてその大切さに気づく空氣のよ
うな存在である。多くの人命を預るのは
教育現場も同じこと。安全第一の
精神を常に持ち続けたい。備えあ
れば憂いなし。転ばぬ先の杖。



* 威に語る祖国	つかこうへい
光文社	¥ 850
* スキな人キレイな奴	小島 直記
新潮社	¥1300
* あのときあの言葉	日本経済新聞
日本経済新聞社	¥1250
* 歴史をみる眼	堀米 庸三
日本放送出版協会	¥ 780

※子ども遊び大全 遠藤 ケイ
新宿書房 ￥2300

ひと昔前の子供の遊びといえば、竹トンボ・ベゴマ・馬乗り・かごめかごめなど集団による肉体的遊びがほとんどであった。単純で素朴ではあるが、そこには創意工夫があり、活気に満ちた遊び仲間との交流があった。

本書は、高度成長期前の子供の遊び56種を登場させ、遊び方やそのコツが分かり易く絵解きされている。今の子供たちの生命力を回復させる手引書としても、大いに役立つのではないか。